

鳥獣センター通信

鳥獣被害対策マイスター レベルアップ研修（電気 柵）が開催されました。

県では、鳥獣被害対策を効果的に実施するため、各地で技術指導等の実践を行う鳥獣被害対策マイスターを平成22年度から養成してきており、これまでに10名の方が認定されています。

さらに昨年度から、マイスターの知識と技術力のより一層の向上を図るため、新たに「鳥獣被害対策マイスターレベルアップ研修」を実施しています。

今年度は、①電気柵、②捕獲技術、③小型獣対策、④鳥害対策、⑤鳥獣害総合対策の5つの専門分野に分けて、それぞれに外部講師を招き、室内と実習の2本立てで研修を行う予定です。

このうち、電気柵の研修を、7月2日に県林業技術センター、3日に総合農試畑作園芸支場の2会場で開催し、38名のマイスターが受講しました。

室内では、電気柵設置上のポイントと各種機器類の使用上の注意点を学び、実習では、悪天候のなか、受講者が実際に電気柵を設置して、講師に評価してもらいました。

今回の研修がより実践的な内容であったこともあり、参加されたマイスターの方々は、大変熱心に受講されていました。研修で学んだことが、今後の現場業務で活かされることが期待されます。



↑実習の様子



↑室内研修の様子

これならできる鳥獣被害対策（第6回） ～「電気柵設置の注意点について」～

チェックポイント

- ①電圧は4,000V以上を確保する
- ②地上から20cm間隔に線を張る
- ③ガイシはほ場の外側に向ける
- ④定期的に電圧を測定する
- ⑤雑草管理はしっかりする
(漏電しやすい「つる性植物」注意)
- ⑥道路の際に柵を立てない
(舗装から50cm以上空ける)
- ⑦アースをしっかりと深く広くとる



↑
(左) 金属パイプに絶縁テープを巻いてガイシ替わりにしている。
(右) イボ支柱(金属管を樹脂被覆しているもの)に直接、柵線を巻いている。
*どちらも絶縁効果が低く漏電の原因です。

電気柵安全使用について

- ①AC100vまたは200vの電源を直接柵線に通電しない
- ②人が容易に立ち入る場所には「危険表示板」を設置する
- ③ペースメーカーや除細動器を装着している人を柵線に触れさせない
- ④有刺鉄線等を柵線やアース線に使用しない
- ⑤雷発生時には電気柵に近づかない
- ⑥アースは他の電気機器のアースから10m以上離す
- ⑦水道管やガス管をアースに使用しない

* 詳細は <http://www.nihondenkisakukyogikai.org/safetystandards/> を参照

広く普及している電気柵ですが、設置の仕方を誤ると効果が無いばかりか、電気柵を恐れない獣を育てることとなり、逆効果となります。
今一度、電気柵設置のチェックポイントをご確認いただき、正しく設置してください。
また、日本電気さく協議会では、安全使用の自主基準を定めていますので、遵守してください。
写真は、現場で見られる良くない事例です。

被害対策に関する問合せ
西日杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合 等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

中部地域

打ち上げ式防鳥機器の実証ほ設置

宮崎市田野町で3月14日に、鳥獣対策の検討会を開催しました。当該地域は、製茶工場の軒下や近くの林に営巣するムクドリ・カラスによる糞害や羽根の異物混入の他、カラスが葉たばこ定植苗を引き抜く等の被害が増加しています。

そこで、鳥おどし機材として効果があると言われている、打ち上げ式防鳥機器の実証ほ設置と現地検討会を実施しました。タバコほ場では、カラスが寄りつかなくなる等、高い効果を農家が実感され、早速、導入に向けて検討されていました。



①バードパンチャー設置



②現地検討会の様子

鳥獣被害対策を地域ぐるみで推進するモデル集落の検討会を、5月9日に宮崎市田野町八重地区、14日に同町松山地区で開催しました。参集は集落の代表者、宮崎市及び中部農林振興局の担当者で、現在の被害状況の確認と平成26年度の活動計画を決定しました。本年度は、地域住民の意識向上を図るために、研修会の開催や環境点検への住民参加を推進することになりました。また、5月16日には、宮崎市田野町八重地区に昨年設置した猿害対策の実証ほの効果確認を行いました。鳥獣被害対策支援センター職員のを基に、実証ほを改善することになり、更なる被害低減に期待をもちているところです。

モデル集落の活動推進

西臼杵地域

モデル集落として活動している日之影町竹の原集落の取組事例について紹介します。

モグラの捕獲

モデル集落研修会で、家庭菜園でのモグラの被害について質問があったので、左記の要領で捕獲器を設置してもらったことになりました。

すると、設置後から2週間で2匹の捕獲に成功しました。身近な例で効果があったことで、集落内で対策を進めるための話題づくりができました。

・モグラの捕獲方法

①モグラのトンネル
地表近くのトンネルは、頻繁に使う「生活道」と、1度しか使わない「探餌道」の2種類があります。

トンネルを埋め戻しても、翌日に復活するものは「生活道」の場合が多く、続けて数回埋め戻しても復活するようであれば「生活道」です。

②捕獲器の設置

捕獲器は「生活道」の中に隙間がないようにぴったりと設置し、埋め戻して目印を立てておきます。

電気柵から離して種まき

今年の3月から、近隣の3軒で共同電気柵の展示ほを設置しています。この畑は、昨年まで飼料用作物の収穫後、電柵を撤去するとすぐに、イノシシが畑を掘り返して凸凹になり、トラクタ作業に苦労していた場所です。

今年は飼料用トウモロコシ等を作付けしていますが、現地研修での説明を受け、電気柵から離してトウモロコシを播種しています。基本的なことですが、柵から離して播種することで、柵の外に作物を出さず、また、作物への執着心がやわらぐことで、動物が侵入しにくくなります。このように、畑を守る環境にすることが大切です。

また、電気柵は効果的に侵入防止を図るため、通年で通電する予定です。



トウモロコシほ場の様子